



にじのはし幼稚園 園だより

平成27年 9月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 新井智子



『現実対峙力』を育む
—向き合い 考え 動き 乗り越える力—

園長 新井智子

今年も強い日差しに悩まされた猛暑の夏でした。各ご家庭におかれましては、ご家族の体調に気遣いながら、日々お子さんと向き合い喜怒哀楽いろいろ賑やかに過ごされたことでしょうか。今年の夏休みはいかがでしたか。

いよいよ2学期が始まりました。どの学年にとっても2学期は、じっくりと遊びに取り組み、経験を広げたり深めたりする充実の時です。運動会や作品展などの行事があり、子どもたちの晴れ舞台が待っています。しかし、日々の遊びの中に、子どもがぐんと育つ経験がたくさん散りばめられているのが2学期です。遊びがうまくいった成功感、友達に認められた有用感、物事をし終えた達成感など、子どもたちの自信につながる大事な感情が遊びや友達とのかかわりの中で生まれるでしょう。

さて、この夏の研修の中で印象に残ったことを一つお話します。それは、企業の人材育成コンサルタントをしている講師の先生のお話でした。序盤は、新入社員の最近の傾向についてのお話でした。苦勞して大手企業に勤めても『3年以内で離職する確率が30%』だそうです。その背景には、ストレスや戦力化にならない自分に見切りをつけていく若者像がありました。「できると思ったことがうまくできず落ち込む」「意味のない仕事には気持ちが入らない」「相手の反応が気になって思っていることを言えない」「職場からの注意や叱責が辛い」「苦手な上司や先輩とうまく関係がつかれない」「みな忙しくかかわってもらえない」「自分自身の力で成果を出せず今後やっていく自信がない」などの姿をあげ、企業が今の時代に必要としている力は、『現実対峙力』だと言われました。

『「けんじつたいじりょく現実対峙力』つまり、思い通りにならない厳しい現実に対しても人のせいにならず、逃げずに向き合い何とかしようとして行動していく姿勢なのです。

そして、その力の基盤は幼稚園の自由な遊びの中でこそ育まれる「不確実な中での自己決定」「無条件で自己受容される経験」「自分でやる」「ルールを守る」などの自立心や主体性、社会性だと強く主張されました。

先にあげた成功感、達成感は大事です。そして、それとともに困難から逃げない力、失敗を乗り越える力、諦めず粘り強く取り組む力、人と協働していく力などを幼児期に遊びを通してしっかりと身に付けさせていくことも重要なのです。

子どもたちの生活や遊びの中で起こるけんかやもめごと、困ったりうまくいかなかったりする出来事も子どもにとって必要なことです。きっと、「どうしよう」と考えたり、「なんとかしよう」と頑張ったりすることでしょう。そして、幼稚園は、子どもたちにとって意味のある経験にするために、思いに沿いながら、機会を逃さず心して指導してまいります。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

